



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金



2017年度(第37期) 事業報告書



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

感謝を込めて…

合掌 日頃は愛の輪運動へのご支援ご賛同を賜り心より感謝申し上げます。

1981年、「めい あい へるぶ ゆう」(何かお手伝いできることはありませんか?)との想いで始まり
ました愛の輪運動は、今年で37年目を迎えます。

2017年度には全国のみスタードーナツショップに点字メニューが導入されました。
これは、みスタードーナツお客さまセンターに寄せられたお声がかきかけとなり、視覚に障がい
のある愛の輪の研修生に協力いただき、実際に店舗で使用しながら制作しました。
今後も当財団は、障がいのある人もない人も暮らしやすいお手伝いをしてまいります。

現在、「ダスキン愛の輪基金」では、主に二つの事業に取り組んでいます。
一つは、財団設立時から実施している「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」。
研修生はその貴重な体験を活かし、大学教授や弁護士、自立生活センターの運営、パラリン
ピック選手など様々な分野で活躍されています。

そしてもう一つは、1999年に発足した「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」。
帰国後は母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

これらの活動は、会員の皆さまからの会費やみスタードーナツ店舗などでの募金、そして多くの
方々からの献金と、研修生を受け入れていただく関係機関を含めた皆さま方からの支えによっ
て続けることができました。

これからも公益財団としての社会的責任を果たし、「愛の輪の活動」をより多くの方々に理解い
ただくための取り組みを行い、全ての人が心豊かに暮らせる社会づくりのお手伝いを続けてま
いります。

今後共、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。 合掌

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

理事長 山村輝治



ダスキン障害者リーダー育成 海外研修派遣事業



事業発足後、37年間で504名の 研修生を海外15カ国に派遣。 第37期は個人研修生5名、 グループ研修生3名を 研修派遣しました。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された
国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。
この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う
障がいのある若者に海外で研修していただくもので、
障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、
国内外に広く知られています。

研修派遣生の 構成 (504名)

地域別(応募時)

北海道	9名	北陸	13名
東北	28名	近畿	100名
北関東	58名	中国	20名
南関東	57名	四国	15名
東京	115名	九州	41名
東海	48名		

性別

男性	228名
女性	276名

障がい種別

知的障がい	77名
視覚障がい	106名
聴覚障がい	98名
盲ろう	2名
肢体不自由	199名
てんかん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	3名
発達障がい	1名

海外派遣先別

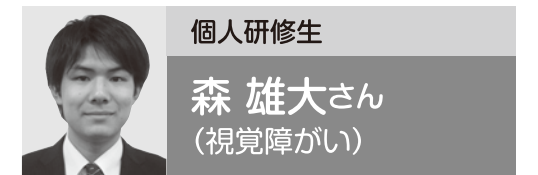
アメリカ	393名
イギリス	24名
スウェーデン	15名
オーストラリア	12名
ニュージーランド	14名
ドイツ	11名
カナダ	9名
フィジー	8名
フィンランド	5名
イタリア	4名
ノルウェー	3名
デンマーク	3名
フランス	1名
フィリピン	1名
ロシア	1名

障がい者関連政策に対するロビー活動への 参加など本当に貴重な体験ができたと思う。

私は、アメリカ・ボストンの自立生活センターで研修を行いました。研修では幅広い年齢層、多様な障がいのある人々の自立生活を支援したり、州の役所で障がい者関連政策に対してロビー活動に参加しました。

研修を通して強く感じたことは、障がい者が直面している問題に対して、障がい当事者が起こすアクションの重要性です。アメリカの障害者差別禁止法ADAでは、教育や就労の現場などあらゆる場面で、障がい者に対して障がいを理由とした差別を禁止しています。しかし、施行後28年が経った現在も、教育や

就労へのアクセスが障がいのない人々と公平であるとは言えません。この状況を変えるために、多くの障がい者自身が本来持つ障がいのない人々と同様の市民権を認識し、それらの権利のために声を上げて社会に対して問題を顕在化させています。その結果、公共交通機関へのアクセスなど、実際に権利を勝ち取ってきました。ロビー活動の現場に立ち会えたことは私にとって本当に貴重な体験となりました。今後は、障がい者自身が自らの市民権を認識する仕組みやアクティビズムの方法論について、より深く学んでいくつもりです。



個人研修生

森雄大さん
(視覚障がい)

【研修先】アメリカ: Boston Center for Independent Living
【研修期間】2018年4月4日~2019年3月20日(予定)
【研修テーマ】普通学級で学ぶ障がいのある児童の学び方とその児童を取り巻く他の生徒や教師の「障がい」に対する認知と関わり方



アメリカには自ら選択して動ける環境—— 自立するための資源が整っていると実感。

アメリカ・アリゾナ州ツーソンにある自立生活センターを拠点に、「ピアカウンセリングとエンパワメント」を中心に学びました。ツーソンでは気軽に声をかけられますが、その多くが「何か手伝うことはありますか」と選択を任せてくれます。また、公共交通機関のアクセスのしやすさ、人の目が日本と異なることは知ってはいましたが、体験するとその心地よさに驚きました。先駆者たちが勝ち取ったADA(障害者差別禁止法)が社会に浸透しており、自ら選択して動ける環境——自立するための資源が整っています。障がいによっては利用しに

くい場所もありますが、自分のニーズを明確に主張することにより、必要なサポートを受けることができます。「前例がないからできない」ではなく、「どうしたらできるか」の視点で当事者だけでなく、地元企業をはじめ社会で考える勉強会も活発に行われており、エンパワメントに直結することを肌で感じました。これからも、さまざまな障がいのある方とお会いして生活における工夫や経験を学ぶとともに、地域社会が障がい者どう関わっているのかその取り組みを学びたいと考えています。



個人研修生

宮城 千恵子さん
(肢体不自由)

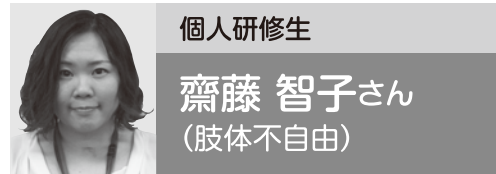
【研修先】アメリカ:DIRECT
【研修期間】2018年3月17日~2019年2月10日(予定)
【研修テーマ】ピアカウンセリングを用いた障がい者のエンパワメントについて



複数の国で障がい者の生活やダイバシティを 学ぶことができたのは非常に有意義でした。

3年前に難病を発症するまで企業で働いていたことから、障がい者雇用の改善に貢献したいと強く思っています。雇用改善のためには、一つひとつの雇用現場をより良いものにしていくことに加えて、国内の法整備や世論の醸成など包括的なアクションも不可欠だと考えています。これら二つのアプローチを学ぶため、ニューヨークの国連開発計画本部(UNDP)での研修、また、ロンドンの障がい者支援団体で雇用現場の改善のための具体的な施策を学びました。UNDPでは国連における障がい者支援について学びながら、

障がい者だけでなく国籍やジェンダー・LGBTIなども含めた広い意味でのダイバシティについて理解を深めました。一方で、障がいがあっても健常者と同様に自分の持てる力を発揮して組織に貢献ができることを証明するためにいくつかの人事プロジェクトにも参画。また、ニューヨークを拠点にしながら2週間ほどデンマーク・コペンハーゲンの国連オフィスに滞在する機会もありました。アメリカ、デンマーク、そしてイギリスでの経験で、複数の国における障がい者の生活・ダイバシティを学べたことは非常に有意義だと感じています。



個人研修生

齋藤 智子さん
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ:UNDP
イギリス:Leonard Cheshire Disability
【研修期間】2018年3月7日~2019年1月16日(予定)
【研修テーマ】英国における「障がい者雇用」の実態と、実際の雇用現場の実例を学ぶ



スタディ・イン・アメリカ研修

2年ぶりに実施されたプログラムで、今回は2名の研修生をアメリカに派遣。約5ヵ月間にわたって語学研修とともに、個人の希望するテーマに沿った研修を行いました。

林田 光来さん(肢体不自由)

【研修テーマ】障がいを持つ子どもとその家族のためのコミュニティー支援



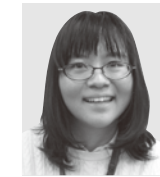
私は、Federation for Children with Special Needsという障がい児を抱える家族やその関係者に対する支援を行っている機関でインターンシップを行いました。ここでの5ヵ月間の学びを通して、私の障がい当事者としての経験が日本の障がいを持つ子ども達やその家族をエンパワメントする要素になれるのだということを知り、私の「障がい者」というアイデンティティーをより大切に生きていきたいと思うようになりました。ダスキン愛の輪基金の第37期研修生になれたことを誇りに思います。



【研修先】アメリカ:マサチューセッツ州立大学ボストン校(UMB) 地域インクルージョン研究所(ICI)
【研修期間】2017年7月28日~12月19日
【研修内容】①英語集中研修 ②学期間の障がい学習 ③障がい者リーダーシップ個人研修 ④定期的なグループ指導セミナー

大塚 里奈さん(肢体不自由)

【研修テーマ】自立を実現するためのアドボカシーを学ぶ



ボストンでの経験と出会いは、私に障がいを持ち生きること自信をもたらしてくれました。Boston Center for Independent Livingでのインターンシップ経験を通して、自ら考え行動し、もし失敗してもそこから学ぶことで成長につながることを知り、新たなコミュニケーションを会得しました。また、私を迎えてくれたホストファミリーは、初めての地で緊張する私を和ませてくれ、時に失敗を重ね落ち込む私を鼓舞してくれました。研修生であった誇りを胸に、学んだことを地域に還元していきます。



ミドルグループ研修

今年度、初めて実施されたプログラムで、障害者権利条約の国内実施に取り組みたいグループ(研修生3名)をニュージーランドに派遣。2週間の研修を行いました。

斉藤 新吾さん つくば自立生活センター ほにゃら



ニュージーランドと日本を比較することは難しいです。ニュージーランドに憧れることもあれば、日本の仕組みを伝えたいこともあります。障がいがある人の人権を回復するために、当事者を含めてさまざまな人が闘っていますが、その状況を悲観的に捉えるのではなく、笑顔あるコミュニティーを形成しながら人生を営んでいることを知りました。

生井 祐介さん つくば自立生活センター ほにゃら



訪れた障がい者団体では、障害者権利条約の考えに沿って活動をしていました。また、障がい者の声を生かせる体制を政府自ら整えていたことも素晴らしいと思いました。ニュージーランドは、障がい者が暮らしやすい社会システムがすでにできあがっていますが、日本でも障害者差別解消法の改正の際に、障がい者の声を反映していきたいと思います。

鈴木 仁美さん 自立生活センターいろは



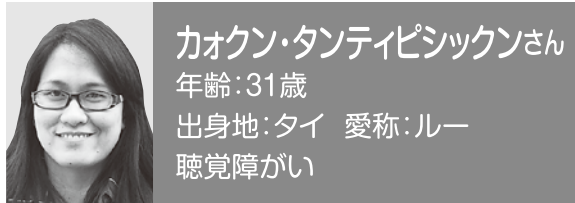
今回、2週間の研修を終えて思ったのは、障がい当事者の声がしっかりと政府や学校に届いているということです。新しい制度を作る時も、新しい校舎を建てる時も、障がい当事者の声を聞いて反映させていて、健常者と障がい当事者が一緒になって物事を作り出せる環境があることは、絶対に日本に持ち帰って日本でも実現させるべきだと思いました。



【グループ名】いばけんつ
【研修先】ニュージーランド:ODI,DPAなど 20ヵ所
【研修期間】2017年11月11日~11月24日
【研修内容】日本における「社会モデル」を軸とした障害者権利運動の未来図を創るための視察

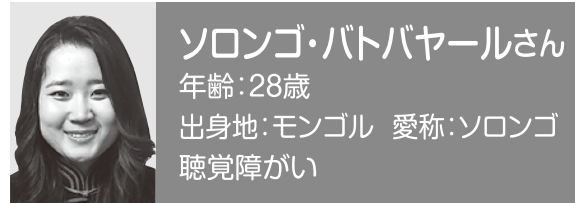
1999年の発足より19年目を迎えた、 アジア太平洋地域からの研修生招へい事業。

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。応募者165名の中から選出された第19期の5名は、2017年9月12日にダスキン本社で開催された開講式の後、それぞれが約10ヵ月の研修に臨みました。



カオン・タンティピシクンさん
年齢:31歳
出身地:タイ 愛称:ルー
聴覚障がい

現在、フリーランスの手話通訳として活躍されているカオンさん。ボランティアでタイろう協会の事務局長を務め、バンコクろう協会でもメンバーとして活動。日本では、ろう協会と政府との協働および取り組み、手話通訳や字幕サービスに関する政策および法律、手話ニュースの運営、ろう者や難聴者の就労支援について研修。帰国後は、日本とタイのろう者がこれまで以上に緊密な関係を築けるよう、日本側から要望があればタイ視察ツアーを行ったり、タイのろう者に日本手話を教える活動などを目標としています。



ソロンゴ・バトバヤールさん
年齢:28歳
出身地:モンゴル 愛称:ソロンゴ
聴覚障がい

ソロンゴさんは大学卒業後、母親が代表を務めている団体に洋服を仕立てる仕事を手伝いながら、日本人が設立した団体に、ろうの子どもたちにちぎり絵を教えるなどの楽しい活動を実施。今回の研修では、障がいのある人によるワークショップの運営や、ろう学校の教員による子どもたちとの関わり合い方を理解したり、障がいのある人に役立つ被服作成やおしゃれを楽しむためのヒントなどについて学びました。帰国後の目標は、ろうの子どもたちに洋裁の技術を教え、ろう児のアイデンティティ獲得に役立てたいとのこと。



中央・西アジア 7名

- カザフスタン 2名
- タジキスタン 2名
- キルギス 1名
- アフガニスタン 1名
- ウズベキスタン 1名

南アジア 38名

- ネパール 11名
- パキスタン 9名
- バングラデシュ 6名
- スリランカ 5名
- インド 5名
- モルディブ 2名

東アジア 24名

- 韓国 6名
- 台湾 8名
- モンゴル 6名
- 中国 4名

東南アジア 56名

- ベトナム 8名
- フィリピン 10名
- インドネシア 7名
- カンボジア 7名
- マレーシア 6名
- ミャンマー 5名
- タイ 6名
- ラオス 5名
- シンガポール 2名

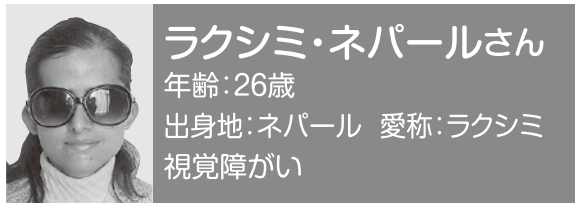
第19期生 日本での主なスケジュール

- 2017年9月……開講式
日本語(日本手話)研修
- 2017年12月……日本語・日本手話成果発表
グループ研修
- 2018年1月……ホームステイ
グループ研修
- 2018年2月……個別研修(～5月)
グループ研修(5月～6月)
- 2018年6月……成果発表会・修了式

現在までに
27の国と地域から
132名が参加

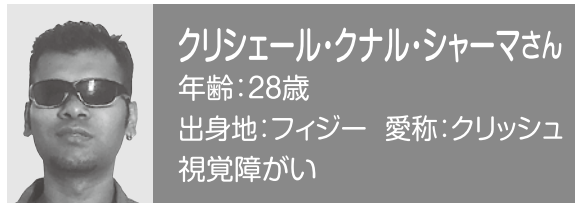
オセアニア 7名

- パプアニューギニア 1名
- フィジー 5名
- ソロモン 1名



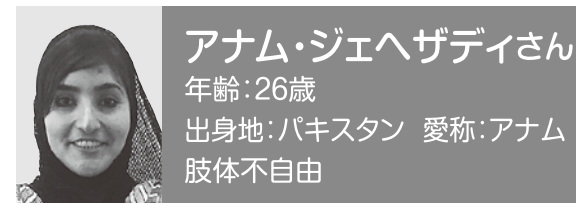
ラクシミ・ネパールさん
年齢:26歳
出身地:ネパール 愛称:ラクシミ
視覚障がい

英語-ネパール語の通訳をするかわら、ネパール盲人女性協会の役員や視覚障がい者団体アクセス・プラネットの共同設立者としてリーダーシップを発揮しているラクシミさん。障がい者の生活や教育をアクセシブルにすることを目的に、コンピュータやインターネットの講習、モビリティの講習、点字図書や電子書籍の作成などを実施。日本では視覚障がい者の雇用、教育についてのアクセシビリティやインフラなどについて知識を習得。帰国後は自身の団体にプロジェクトを運営し、政府系機関とも連携を図りたいそうです。



クリシェール・クナル・シャーマさん
年齢:28歳
出身地:フィジー 愛称:クリッシュ
視覚障がい

フィジー盲人協会の西部地域代表や、フィジー国内で障がい分野を越えた連携を行うフィジー障がい者連盟の理事を務めるクリシェールさん。母国では、障害者権利条約の実施や権利擁護活動などに取り組まれています。日本での研修では、視覚障がい者のアスリートチームの形成のしかたとその運営方法をはじめ、行政交渉および行政と障がい者団体の協働、視覚障がい者団体の運営やサービス内容を学習。帰国後は視覚障がい者のスポーツチームの設立、フィジー西部地方での視覚障がい者の支援について取り組む予定です。



アナム・ジェヘザディさん
年齢:26歳
出身地:パキスタン 愛称:アナム
肢体不自由

アナムさんは、アジア第3期研修生であるシャフィック・ウル・ラフマンさんが代表を務める自立生活センター・マイルストーンで、広報と女性コーディネーターを担当。日本では、特に女性の障がい者が効果的な働く方法、日本の自立生活運動の歴史や自立生活プログラムの実施方法、日本で施行されている障がいに関する法律、障がいのある女性の結婚生活やライフスタイルを学びました。帰国後は、地域の女性障がい者たちの能力の開花を促すピアサポートを行い、自立した生活が送れるように支援することを考えています。



全国各地で活発な愛の輪啓発活動が行われ、 ご理解とご支援の輪がさらに広がりました。

ミスタードーナツ 第38回フレンドシップフェスティバル

愛の輪タイムで研修生による研修報告と 点字メニュー導入に伴うロールプレイングを実施

今年で38回目を迎えた「ミスタードーナツ フレンドシップフェスティバル」。全国10会場で開催された地域大会の愛の輪タイムでは、研修派遣生による講演(別表)のほか、今年4月からミスタードーナツ各店舗に点字メニューが導入されたことに伴い、視覚に障がいのあるお客様をお迎えした時の接し方について、ロールプレイングが実施されました。

この点字メニューは、研修派遣生が監修として携わり、アドバイスをしながら製作されたもの。今回はそれを使い、ショップスタッフのみなさんがショップでのお迎えから注文の取り方、サービスの提供、出口への誘導、そしてお見送りまでの一連の流れを、お客様役の研修派遣生を相手に言葉とアクションで確認しました。

地域	研修派遣生	会場
北海道地域	第25期研修派遣生 福地 健太郎さん	シャトレ・ゼガトーキングダムサッポロ
東北地域	第26期研修派遣生 常 瑠里子さん	花巻温泉 ホテル花巻
北関東地域	第31期研修派遣生 石田 由香理さん	ヒルトン東京ベイ
東京地域	第31期研修派遣生 石田 由香理さん	ヒルトン東京ベイ
神奈川地域	第34期研修派遣生 野澤 幸男さん	大磯プリンスホテル
北陸地域	第18期研修派遣生 青柳 まゆみさん	ホテル アローレ
東海地域	第30期研修派遣生 安田 真之さん	ナガシマリゾート ホテル花水木
近畿地域	第30期研修派遣生 安田 真之さん	神戸ポートピアホテル
中国・四国地域	第30期研修派遣生 安田 真之さん	ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル
九州地域	第29期研修派遣生 大山 歩美さん	玄海ロイヤルホテル



ダスキン感謝のつどい

愛の輪タイムで研修派遣生が講演

全国各地で開催された平成29年度「ダスキン感謝のつどい」にて、愛の輪の研修派遣生が講演を行いました。参加された研修派遣生は別表のとおりです。



地域	研修派遣生	会場
北海道地域	第34期研修派遣生 野澤 幸男さん	札幌市教育文化会館
東北地域	第34期研修派遣生 執印 優莉亜さん	弘前文化センター
北関東地域	第34期研修派遣生 川端 舞さん	つくば市立ノバホール
東京地域	第34期研修派遣生 伊山 功起さん	浅草公会堂
北陸地域	第28期研修派遣生 安原 美佐子さん	鯖江市文化センター
東海地域	第34期研修派遣生 執印 優莉亜さん	一宮市尾西市民会館
近畿地域	第30期研修派遣生 安田 真之さん	文化パルク城陽プラムホール
中国地域	第28期研修派遣生 畑 俊彦さん	島根県民会館大ホール
四国地域	第36期研修派遣生 菅田 利佳さん	新居浜市民文化センター
九州地域	第30期研修派遣生 安田 真之さん	八千代座

正味財産増減計算書・ 貸借対照表・財産目録 収入・支出 会員数の推移

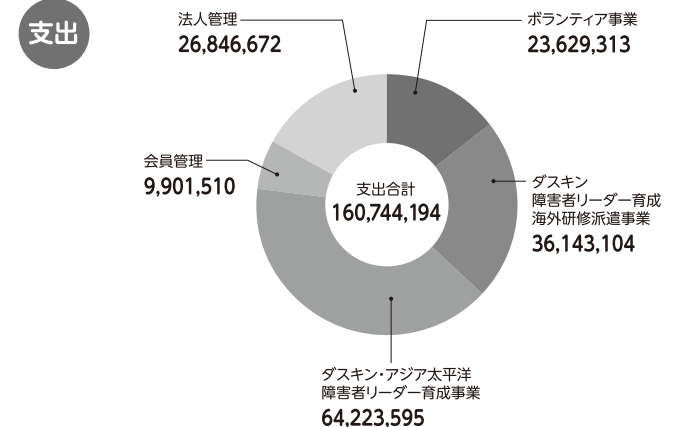
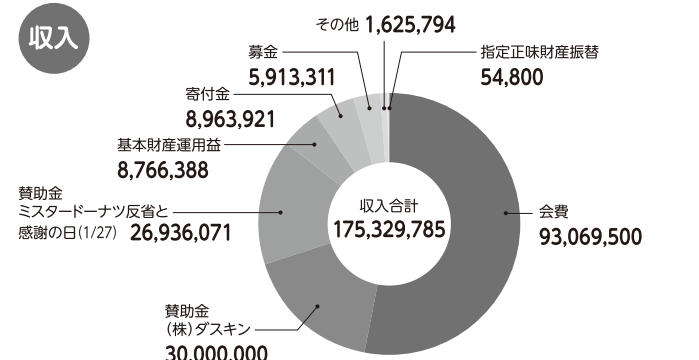
科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	8,766,388
基本財産受取利息	
受取会費計	150,005,571
受取寄付金計	14,877,232
雑収益計	1,625,794
経常収益計	175,329,785
経常費用計	160,744,194
当期経常増減額	14,585,591
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	14,585,591
一般正味財産期首残高	65,131,662
一般正味財産期末残高	79,717,253
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	14,657,400
指定正味財産期首残高	1,855,000,000
指定正味財産期末残高	1,840,342,600
III 正味財産期末残高	1,920,059,853

	第35期 2016.3.31	第36期 2017.3.31	第37期 2018.3.31
資産の部			
流動資産	52,284	55,220	71,650
固定資産	1,870,252	1,882,260	1,867,456
資産合計	1,922,537	1,937,481	1,939,107
負債の部			
流動負債	1,987	2,612	3,038
固定負債	13,592	14,736	16,009
負債合計	15,579	17,349	19,047
正味財産の部			
指定正味財産	1,855,000	1,855,000	1,840,342
一般正味財産	51,957	65,131	79,717
正味財産合計	1,906,957	1,920,131	1,920,059
負債及び正味財産合計	1,922,537	1,937,481	1,939,107

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	69,890,520
貯蔵品	1,674,151
仮払金	0
前払金	86,000
未収金	0
流動資産合計	71,650,671
【固定資産】	
基本財産	1,840,342,600
その他の固定資産	27,114,327
固定資産合計	1,867,456,927
資産合計	1,939,107,598
負債の部	
【流動負債】	
未払金	2,210,540
前受会費	264,000
預り金	563,729
流動負債合計	3,038,269
【固定負債】	
退職金給与引当金	16,009,476
固定負債合計	16,009,476
負債合計	19,047,745
正味財産	1,920,059,853

*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

収入・支出 単位:円



会員数の推移 2018年3月31日現在 単位:人(件)

	第35期 2016.3.31	第36期 2017.3.31	第37期 2018.3.31
法人会員	223	223	227
特定法人会員	456	472	469
エルダー会員	535	544	545
働きさん会員	1,739	1,719	1,707
個人会員A	1,382	1,539	1,515
個人会員B	2,964	3,061	2,908
個人会員C	6,829	7,034	6,880
小計	14,128	14,592	14,251
メイト会員	92	95	34
(累計)	173,924	174,019	174,053
合計会員数	14,220	14,687	14,285
(累計)	188,052	188,611	188,304

第37期(2017年)は、研修派遣生8名を世界各国へ派遣しました。

- **第1期 1981年**
 - 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
 - 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

- **第2期 1982年**
 - 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
 - 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。
- **第3期 1983年** ●留学生9名を派遣。
- **第4期 1984年** ●留学生9名を派遣。
 - 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



- **第5期 1985年** ●留学生9名を派遣。
- **第6期 1986年** ●留学生8名を派遣。
 - 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。
- **第7期 1987年** ●留学生8名を派遣。
- **第8期 1988年** ●留学生7名を派遣。
- **第9期 1989年** ●留学生7名を派遣。
- **第10期 1990年** ●留学生10名を派遣。

- **第11期 1991年**
 - 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
 - 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

- **第12期 1992年**
 - 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



- **第13期 1993年**
 - 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。

- **第14期 1994年**
 - 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
 - 研修派遣生13名を派遣。

- **第15期 1995年**
 - 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
 - 研修派遣生10名を派遣。

- **第16期 1996年** ●研修派遣生10名を派遣。
- **第17期 1997年** ●研修派遣生9名を派遣。

- **第18期 1998年** ●研修派遣生7名を派遣。
 - 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

- **第19期 1999年** ●研修派遣生9名を派遣。
 - ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



- **第20期 2000年** ●研修派遣生8名を派遣。
- **第21期 2001年** ●研修派遣生9名を派遣。
- **第22期 2002年** ●研修派遣生9名を派遣。

- **第23期 2003年**
 - 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
 - 研修派遣生11名を派遣。

- **第24期 2004年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- **第25期 2005年**
 - 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
 - 研修派遣生11名を派遣。

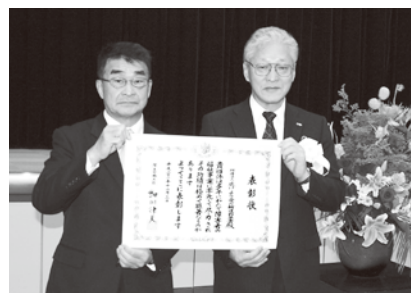
- **第26期 2006年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- **第27期 2007年**
 - 研修派遣生12名を派遣。

- **第28期 2008年**
 - 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
 - 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

- **第29期 2009年**
 - 研修派遣生16名を派遣。

- **第30期 2010年**
 - 研修派遣生27名を派遣。
 - バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。
 - 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



- **第31期 2011年**
 - 研修派遣生19名を派遣。
 - 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

- **第32期 2012年**
 - 研修派遣生13名を派遣。

- **第33期 2013年**
 - 研修派遣生9名を派遣。
 - ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

- **第34期 2014年**
 - 研修派遣生14名を派遣。
 - 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

- **第35期 2015年**
 - 研修派遣生5名を派遣。

- **第36期 2016年**
 - 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
 - 研修派遣生7名を派遣。

- **第37期 2017年**
 - 研修派遣生8名を派遣。
 - 「ミドルグループ研修」が加わる。

■役員

(任期:2017年6月19日~2019年6月開催予定評議員会)

理事	理事長	山村 輝治	(株)ダスキン 代表取締役 社長執行役員
	専務理事	宮原 和之	(株)ダスキン ミスタードーナツカレッジ学長
	常務理事	山本 典芳	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	宮城 まり子	(学)ねむの木学園 理事長
	理事	寺岡 豊彦	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	松友 了	社会福祉士事務所・早稲田すばい 社会福祉士
	理事	五十嵐 紀子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	松井 亮輔	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長
	理事	關 宏之	(社福)日本ライトハウス 常務理事
	理事	山本 貴之	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
理事	崎野 圭子	ダスキン生産協栄会 理事長	
理事	大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授	
理事	田門 浩	都民総合法律事務所 弁護士	

(任期:2015年6月17日~2019年6月開催予定評議員会)

評議員	評議員	青柳 紀	(株)ヨコハマフーズ 代表取締役社長
	評議員	東 正樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評議員	君塚 葵	全国肢体不自由児施設運営協議会 前会長
	評議員	下 二郎	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	須田 隆	興隆産業(株) 代表取締役
	評議員	桂 慎太郎	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	中尾 知也	ダスキンレントオールコミュニティ会 理事長
	評議員	花島 弘	(社福)日本点字図書館 理事
	評議員	福母 淳治	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事

(任期:2015年6月17日~2019年6月開催予定評議員会)

監事	監事	内藤 秀幸	(株)ダスキン 上席執行役員
----	----	-------	----------------

(任期:2017年6月19日~2019年6月開催予定評議員会)

顧問	顧問	伊東 英幸	(株)ダスキン 元代表取締役会長
----	----	-------	------------------

■ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2017年4月1日~2019年3月31日)

青松 利明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭	尾上 浩二	認定NPO法人DPI日本会議 副議長
青柳 まゆみ	愛知教育大学 障害児教育講座 准教授	小林 洋子	筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 助教
金塚 たかし	特定非営利活動法人 大阪精神障害者就労支援ネットワーク 統括所長	山下 幸子	淑徳大学 総合福祉学部 教授
長瀬 修	立命館大学生存学研究センター 教授	福田 暁子	全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員 世界盲ろう者連盟 事務局長

■ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:2017年4月1日~2019年3月31日)

寺島 彰	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与	野村 美佐子	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 参与
山口 和彦	特定非営利活動法人 居宅移動支援事業所 TOMO 事務局長	村瀬 道雄	(社福)光友会
河村 宏	特定非営利活動法人 支援技術開発機構 副理事長	藤田 俊二	特定非営利活動法人 メインストリーム協会 理事長
嶋本 恭規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事	川口 聖	関西学院大学手話言語研究センター 専門技術員

■愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:2018年4月1日~2020年3月31日)

北海道地域	吉川 哲也	(株)ダスキンフロンティア 代表取締役
東北地域	稲葉 廣直	(株)アイウェイ イナバ 代表取締役
東京地域	鯨井 敦	(株)ダスキン城北 代表取締役
北関東地域	寺澤 義孝	(株)ダスキン西蒲原 代表取締役社長
南関東地域	牧野 保	(有)ダスキン茂原 代表取締役社長
北陸地域	長田 信行	(株)ダスキン北陸 代表取締役
東海地域	小野 英昭	タイホウフーズ(株) 代表取締役社長
近畿地域	山形 淳一郎	(有)シーズ 代表取締役
中国地域	銅山 寛巳	(株)ダスキン児島 代表取締役
四国地域	西岡 正人	(有)ダスキン高知 代表取締役
九州地域	平野 明	(資)ダスキン天草 代表社員

めい あい へるぷ ゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めい あい へるぷ ゆう？（何かお手伝いすることはありますか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが。誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、障害者のニーズを理解し、ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>